

のだめ音楽会について

クラシック音楽を通して音大生の青春を生き生きと描くコミック「のだめカンタービレ」。この作品は老若男女を問わず幅広い年齢層に支持され、クラシック音楽の世界に新しい風を巻き起こしました。原作の主人公は、野田恵と指揮者志望の千秋真一。2人が桃ヶ丘音楽大学で出会い、パリに留学。その様子をコメディータッチで展開し、2,700万部以上の売上を示しています。また、2006年10月からはテレビ長崎の月9ドラマ(フジテレビ系全国ネット放送)でも



大人気を博し、今年お正月に放送された2夜連続のスペシャルドラマでも高視聴率を得ました。クラシック音楽やオーケストラは、決して堅苦しいものでも難しいものでもありません。先入観を取り払ってコンサート会場にお越し下さい。美しいメロディやハーモニーが自然に心に響いてきます。

2006年、のだめ音楽会誕生。そして皆さんのまちへ!

“のだめカンタービレ”のドラマ放送がはじまる前の2006年1月、春日井市(愛知県)で「茂木大輔の生で聴く“のだめカンタービレ”の音楽会」が初演されました。でも何故、春日井市で…?

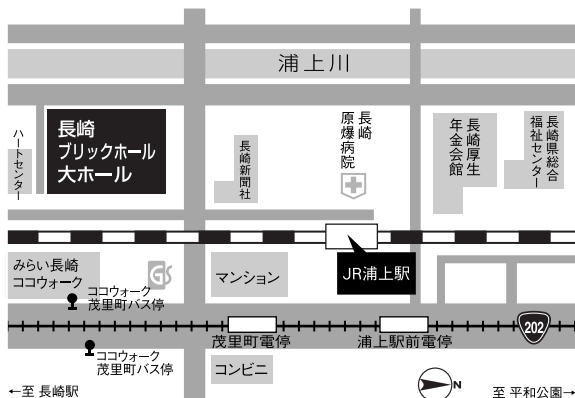
“のだめ音楽会”は、のだめの熱烈なファンである、かすがい市民文化財団スタッフKと、茂木さんのマネジャーMが以前、同じ職場で働いていたという、不思議な縁がきっかけで誕生しました。

「漫画の素晴らしさと、音楽の楽しさを、わかりやすく伝えたい!」茂木さんのその想いを、かすがい市民文化財団のスタッフが手作りで映像にし、オーケストラとコラボレーションすることで、新たな“のだめワールド”を創り上げました。

“のだめ音楽会”は、2007年までに全国9会場で計19公演開催し、延べ3万人の“のだめ”と音楽を愛するお客様にご覧いただきました。2008年、茂木さんとかすがい市民文化財団は、このコンサートを全国にお届けします。さあ、楽しい音楽の時間です★



©ニノ宮知子/講談社



長崎ブリックホール 大ホール

●交通のご案内 JR浦上駅から徒歩5分
路面電車・バス茂里町停留所下車徒歩3分

出演者プロフィール



●茂木大輔(企画・指揮・おはなし)

1959年東京生まれ。ミュンヘン国立音楽大学大学院修了、同大学オーボエ科の講師を経てシュトゥットガルト・フィル第1奏者、1990年からN響首席奏者を歴任。オーボエを丸山盛三(故人)、ギュンター・バッシン、宮本文昭などに師事。その間、シュトゥットガルト・バッハ・コレギウム、ベルリン放送響、ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響、バンベルク交響楽団など国際的オーケストラに客演し、バーンスタイン、ヨッフム、シュタイン、デュトワ、ヨーヨー・マなど世界的演奏家の薫陶を受ける。帰国後も多くのユニークなリサイタルを企画し実現するほか多数のCDをリリースし、常に独自の活動が注目を集める。96年から指揮活動に入り、東京三鷹市芸術文化センターで年間3回のシリーズ公演を企画し、バッハ「マタイ受難曲」「口短調ミサ曲」「ヨハネ受難曲」「ハイドン交響曲シリーズ」「第9初演再現」「英雄・徹底解説」などを上演し新鮮な感動を作り出す。ベートーヴェン交響曲の「初演演奏会再現」や、大人向けの大掛かりなレクチャー付き解説コンサートで人気を集め続ける他、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、群馬交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、九州交響楽団、広島交響楽団、大阪シンフォニカー交響楽団、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団、大阪センチュリー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、東京混声合唱団などに客演。指揮を故・岩城宏之、外山雄三の各氏に師事、和声・楽曲分析などを大澤徹訓、野平多美の各氏に師事。音楽史学の大崎滋生教授に企画監修・レクチャーを通じて私淑している。愛知県芸芸J.S.バッハカペレに指揮者として定期的に客演し、カンタータや器楽音楽を解説しつつ上演し、好評を得ている。ジャズピアニスト山下洋輔とのコラボレーションや、作曲自作自演、即興、作家筒井康隆の原作によるオペレッタの初演指揮、「たけしの誰でもピカソ」「のだめカンタービレの音楽会(企画・指揮)」、ドイツ語講座テキストへの連載、NHKラジオ「ときめきカルチャー」での解説(放送中)など、特異にして興味深い活動はますます活発。二ノ宮知子「のだめカンタービレ」ファンとして取材に協力、CX系ドラマ「のだめカンタービレ」においてクラシック音楽監修。執筆でも知られ、すでに10冊を超える著書があり、「オーケストラ楽器別人間学(新潮文庫)」は異例の長期セールスを記録し続けている。最新刊は「拍手のルール(中央公論新社)」。06年、日本アカデミー演奏賞を受賞した。艦船模型とその特撮、美術、落語、料理、ジャズ演奏、マンガなど趣味の多さでも知られている。



●渡邊恵津子(ソプラノ)《ドラマ・アニメ「のだめカンタービレ」》

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所第5期プロフェッショナルコース修了。第68回読売新人演奏会、サントリーホールデビューコンサート、二期会新進演奏家の夕べ等に出演。オペラでは「魔笛(夜の女王)」、「ヘンゼルとグレーテル(眠りの精)」、「カルメン(フラスキータ)」、「愛の妙薬(アデーナ)」等に出演。第8回ヴェルディ芸術文化振興会特別オーディション特別優秀賞受賞、世界オペラ歌唱コンクール「新しい声2005」ドイツ本選出場。埼玉オペラ協会会員、二期会会員。



●須藤梨菜(ピアノ)

1987年生まれ。江口文子、浦壁信二の各氏に師事。1998年第6回エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール(ドイツ)Aカテゴリー第1位。1999年宇都宮市市民賞受賞。2003年浜松国際ピアノアカデミーに参加、同コンクールにおいて5位入賞。同年第5回浜松国際ピアノコンクール第4位。2005年ピティナ主催第2回福田靖子賞選考会にて福田靖子賞受賞(第1位)。2006年第7回ダブリン国際ピアノコンクール(アイルランド)において日本人最高位かつ最年少第5位入賞。これまでに、NHK交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団と共演のほか、多数のピアノリサイタルを行うなど国内をはじめイタリア・アメリカ・フランス・イギリス・ドイツ・オーストリアなど国内外に招かれ、数多くの演奏会に出演。2006年4月より昭和音楽大学器楽学科ピアノ演奏家コースに在籍。



●財団法人九州交響楽団

1953年発足、1973年からプロオーケストラとして活動を始め、九州各地を中心に年間約130回の演奏活動を行っている。初代常任指揮者・石丸寛(現・永久名誉音楽監督)から、森正、安永武一郎(現・永久名誉指揮者)、フォルカー・レニッケ、黒岩英臣、小泉和裕、山下一史、大山平一郎と受け継がれ、2004年4月からは秋山和慶がミュージック・アドヴァイザー/首席指揮者に就任。首席客演指揮者に1996年4月から引き続き小林研一郎が就任。2006年4月からはリアニア生まれのチェロ奏者として有名なダヴィッド・ゲリングスが首席客演指揮者に就任。1983年東京、大阪公演、1991年、1998年、2001年東京公演、2004年創立50周年の東京・飯田公演、2006年東京公演においては、長い活動を経て徐々に積み重ねられた風格を感じさせると好評を得る。また、1990年、釜山市での公演、1991年以後、アジア各国・ニュージーランドのオーケストラ団員との共演など、「アジアにひろかれた福岡」にふさわしい国際交流にも力を入れている。1998年から2000年にかけて指揮大山平一郎、ピアノ園田高弘氏によるベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲演奏・録音を行い好評を得る。2006年からはフォンテックより4枚の「九響シリーズ」を発売(小泉和裕指揮「ロシア名曲集」、秋山和慶指揮「華麗なる序曲・前奏曲集」、大町陽一郎指揮「シュトラウス・ファミリー名曲集」、秋山和慶指揮「ワルキューレの騎行〜秋山/九響スーパー・サウンドス〜)」。2008年6月には秋山和慶指揮で3枚目となる「九響シリーズ5・ベートルーシュカ/ダフニスとクロエ」を発売(ローム ミュージック ファンデーション助成)。これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞などを受賞。

